夕刊 磐城新聞
八月五日發行
（日曜祭日翌日休刊）

擔がれた話
平＝大津間道中コント
酒井孤村

九

『あらまあ憎くらしい此所に居らしたんですか』女は濟る計りの表情で僕の座敷へ入つて來たのです『隨分お待ちしましたわ。だけど可い處を見付けて頂戴したわ』『一體君は誰の許しを得て此の座敷へ入つて來たんだ』僕は胸が張り裂けん計りに憤慨してゐるのですが、唇が顫え舌が粘り着いて言ひ得ないのです『可いぢやありませんか。其んなに怖い顔をするものぢや莫いわ』『何に言つて居やがるんだ、早く出ろ、早く去らないと張り倒すぞ！』『殴られても殺されても構ひません、あなたを學生さんと見込んでお願がございます、何卒ぞ聞いて下さらない』『ご免蒙る、絕對に斷る……』『ご迷惑は最初から存じて居ます、ですけれど妾は決して怪しい者では御座いません、又御名譽に關るやうな事は致しません、何卒ぞ暫くご我慢遊ばして妾の本願を聽いて頂けないでせうか』女は容を更めて敷居越しに傾れ伏しました、先刻の巫山戯た様子などは微塵もなく何か斯う眞劍さがあるのです。『決して御迷惑はお掛けしません、鞭から棒で誠に恐れ入ります。飛んだ物に見込まれたとお思ひ召して一と通りお聽を願へないでせうか、ただ耳をお汚し致しました上駄目だと仰有られれば是迄の御縁と諦めまして直くにもお暇を致します』其の態度全く眞摯を極めてゐます眞情惻々として身に迫るやうなのです、僕は傾れ伏す女の前に棒立りになつたまゝ一言も發しません親がゝりの學生の身分です縁も由緒もない此の女何を言ひ出すか知らないが聽いた所でどうにも出來ないのは知れた事です聽く必要も無ければ頼まれる義理もありません、蹴飛ばすなり殴き出すなり徹頭徹尾女の要求を撥ねつければよかつたのですが、斯う下た手に出られると始末の悪いものです、こんなに女が眞面目に言ふものを聞く丈なら差支ないだらう、何も女と話したからとて良心に恥じる眞似をした譯でも無し、至つて公明正大であるなどと勝手に理屈を付けたのです

四疊半の童貞（五）
鬼河原狂一

彼れ童貞は、一夜女の傍近く眠つた。そして何等怪しい行爲はなかつた。また夜遊が嫌ひで、他人の話を聞いて非常な滿足をしてゐる……

私はこの男を心理學的に研究してみれば、面白い結果が得られると思つた。がをかしいことには、其後友人の忠告もあり、會社の都合もあつたので、この下宿にオサラバをしたのである。

その後の私の生活も、時の流れとともに變化し、童貞なんかのことは忘れてゐたあるのでが、下宿を去つて丁度三年目のある日、新妻をつれた山中と出會つや、そしていろ／＼と話してゐるうちに、ついに童貞の話になつて來た。山中の話によると、童貞は私が下宿を去つて、半年ばかりして、行方不明になつたそうである。下宿では心配して、保護願ひを出したところ、警察では童貞の所持品檢査をすることになつた

童貞の所持品は、柳行李一ケと雜品が少々あつただけであるが、この柳行李の中には、驚くべきものが一ぱい入つてあつて、殘された上下二枚の蒲團の內側は手が觸れられぬ迄に汚れてゐた

當時は、變態性慾者の犯罪事件が、毎晩數件突發してゐたので、彼れ童貞に、その嫌疑がかけられた。しかし所持品檢査をした時、さすがの警察官も、苦笑を禁じ得なかつたであらう（完）

黒松圖
那須龜森

○天つ光松の鉢葉に透き明りま夏と茂る葉のうつくしき
○黒松は眞夏も根ろのひえびえし地に生ふるものはしづかなるかも
○朝風に肌冷ぬしるき濱並木根ごとに潮の泡たもちつつ
○松の根に堰かるゝ水の赭土の色を溶かして驟雨ゐがりけり

鮎
鈴木欣々子選

鮎の瀨はねむ咲く淵をつくりつゝ　武門
木立かげ深き早瀨の鮎つれり　何鳴
鮎をつる峽の空より百合にほふ　寒山子
鮎の瀨に灯火寄くおとす宿　みのり
百合ひらく岩をそびらに鮎をつる　柴子
鮎つりの來て靜かなる夕の瀨よ　磐洲子
鮎の瀨にこぼれる宿の灯なりけり　枯舟
○
鮎をつる礦夫のあをき服すがし　欣々子

孤獨
矢坂佳忠

つとめ濟み疲れ果て
唯一人なる宿に歸れば
ひたぶるに語る人欲し
麗しの愛ありて
心告げ得ぬ吾が身思へば
うら哀し誰に縋らん
淋しさに瞳とぢ
總て消え行く夢路歩まば
つれ立ちて母と語らん

8月6日

△伴天連宗を禁す（慶長一六）△ハリス下田玉泉寺に我國初の領事館旗を揭ぐ（安政三）△東京三井信託で東洋一の金庫据付け（昭和三）△東阿遠征伊軍廿二萬五千に增派（同一〇）

小說

高橋是清
（84）松浦泉三郎作
佐々木今朝吉畵
轉落（四）

『嬉しい！』

と、縋る桝吉を抱いて和喜次は、暫らく亂れる感情を靜めるやうに沈默してゐたが、やがて

『然し……』

汗ばんだ手を放して

『今までの儘でもゐられまい』

と、言つた。桝吉はその言葉の意味が急には解せぬらしく

『と、言ふと……』

首をかしげて微笑しながら

『どんな……？』

『つまり、置いて貰ふ替りに、何ぞそれだけの事をせずんばなるまい、と言ふ事だ』

『まあ』

『遠慮なく使つて貰ふのだな』

ます吉は嬉しさうに笑つて

『さうして戴ければ親逢と折合もつくと思ふんですけど、でも、商賣が商賣でまさか水汲みの臺所仕事のとそんな事はさせられやしないし、とすると別段他にこれと言つて……』

『ところがあるぞ』

和喜次は惡戯ッぽく笑つて

『大あり名古屋だ』

『まあ、どんな事？』

『當てられるか？』

『さあ？』

ます吉は暫らく考へて

『判らない』

『判らぬかな。恰度俺に似合ひの仕事だ。どうしても男手の方がいゝ仕事だ。そして、この商賣に是非入用な仕事……』

『……』

『まだ判らぬか！』

『焦らさないで……』

『では言はふ。箱屋だ！』

『箱屋？』

ます吉は呆れて男の顔を見た。痩せたりと雖も、ついこの間までは大學南校の敎官、三等手傳とは言へ堂々たる官員だつた者が、いかになんでも、藝妓の三味線を擔いで、迭り迎へする箱屋とは、餘りと言へばかけ放れ過ぎてゐる

『本氣？』

峠を丸くして訊いた

『誰が笑談など』

和喜次ばハッキリと言つた

『でも……』

『でもは要らん。どう思つてか知らぬが、箱屋も一個の商賣だ。世の中に一ッとして、無くて宜い商賣と言ふものはない筈だ。大學の敎官も無論必要だが、箱屋も、藝者が必要な世中では矢張り無くば困らうが。ハッハッ……。商賣は戀に同じさ』

『戀に？』

『うん。共に上下の區別はない』

和喜次は晴れ／＼と笑つて、

『お前の行く先々へ、三味線を擔いで、何處へでも行く。踊りには又迎へだ。へい、姐さんお迎へに、とどうだ、こんな調子ではいかんか』

『ホッホッ……』

『へえ、東屋から參りました。ます吉姐さんのお迎へです、とな。面白いな早速明日からでもかゝらう。頼むぞ』

ます吉も意を決して

『ちやあ本氣で……』

『無論だ！』

……夫婦共稼ぎ……』

『こいつ！』

『三味線なんかあたしが持つ』

『そんな箱屋があるものか』

『ホッホッ……』

『ハッハッ……』

和喜次も、ふと考へると重く沈む心を秘して笑つた

梯子の途中から小女が、

『あの强屋さんから姐さんへ』

と、言ひかけたのを、皆まで聞かうともせずに、

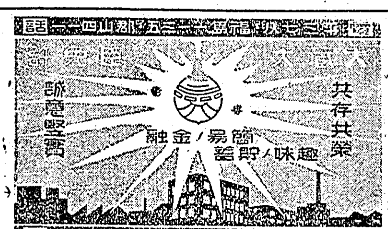
『おことはりして！』

と、ます吉は退けた

『氣分が惡くて寢みましたと、さう言つてお呉れ！』

三井タクシ
電話六八五番

廣告



安齋外科醫院
平町田町
電四七五番

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
織田材木商店へ
福島縣平町
電話平 四六〇番
一變せる勉强振りを、ぜひ一度お試を乞ふ
營業種目
建築木材一式
銘木・ベニヤ板
秋田産杉四分板
建具材・便利瓦

弊院儀今般都合により元郵便局裏、三町目裏川岸通へ移轉仕り從前通り診療に從事仕り候間右謹告仕り候
平町田町五
明雲堂眼科醫院
新妻幸之助
電六六九

新築落成
（一）營業開始（一）
大衆奉仕を……念願とし社會中層の御相手旅館としてやよひ館の名の下に愈々六月六日より營業を開始致しました。
眺望並に清新……の氣分に於て他に遜色なく旅の御疲れを慰むるに適當な處と存じます。
室貨を主こし……經營致します故御食事は御自由ですがた望みに依り差上ぐる設備もあります
※茶代は勿論申受けません。何卒御引立の程を願ひます。
平郵便局通り（電七六番）
やよひ館

X光線科
整形外科
平町才槌小路四
大河內整形外科醫院
醫學士 大河內一郎
電話五八八

吸入用酸素 純度99%

度量衡
モノサシ、マス、ハカリ
計量器
体温器
寒暖計
◎秤ノ取リ・緒ノ垂・糸ノ修・復致シマス
開內藥局
電話四〇番

食事、喫茶、酒場を兼ねた
夏のサロン
男給の店
平・田町・電三五二

眼鏡
メガネは正確にして廉價
最新式各國製レンズ
豊富に取揃へて御座います
（亂視用眼鏡卽時調製）
根本時計店
平町二丁目 電話六〇七

一家に一瓶
新時代の家庭常備藥

水むしに
小さな怪我 創傷 腫物 麻疹 とびひ 皮膚搔痒症 しらくも いんきん たむし はたけ 乾癬
强力殺菌消毒最新藥
ホシマーク
小さな傷から丹毒・ワイルス病・破傷風の如き大きな不安が生れる
本劑の殺菌消毒力は過酸化水素水・ヨーチム丁幾等のそれに倍り、深達性强力にして且つ塗布面の組織を腐蝕せず
本劑のアメリカにて發見せらるゝや近代科學の驚異として迎へられ、忽ちにして全米を風靡し、わが國に於ても、國家にありては既に各科に應用せられつゝあり新時代の家庭常備藥として推薦致す
藥價 〇・三〇
ホシ胃腸藥錠 〇・二〇 〇・五〇 一・〇〇 二・〇〇
ホシチヤコール錠 〇・五〇 一・〇〇
福島縣平町三丁目三〇
星チエンストア平支部
一般藥品 賣藥化粧品 醫療器械
ホシ藥舖
電話四二九番

磐炭連覇の壯圖破れ 入山好間準決勝に入る
東北鑛山野球 第二日目

好間 尾去澤 4—21

第四回東北鑛山野球大會第二日目尾去澤對好間の二勝戰は四日午前九時二十五分仙台市スポーツマン球場において好間の先攻で開始、兩軍のバッテリーは好間（石田－渡邊）尾去澤（圓山－齋藤）

好 6 3 0 3 0 5 4
尾 0 0 0 2 0 2 0
4—21

好間は一回一死滿壘の好機を迎へ渡邊の二壘打で一擧六點を擧げ二回敵失に三點を重ねて早くも大勢決し、四回、六回、七回と安打を集注敵失も加はつて大量の得點をあげたに對し、尾去澤は四回と六回に各二點を返したのみで、七回コールドゲームを宣せらる、閉戰午前十一時十五分

小坂 入山 10—0

小坂對入山の二勝戰はスポーツマン球場に於て午後零時五分から小坂の先攻で開始、兩軍のバッテリー（小坂）馬淵－土井口（入山）佐藤－金士

小 0 0 0 0 0 0 0 0
入 1 0 4 0 3 0 0 2
10—0

入山、佐藤投手は、好調のスタートを切つて焦り氣味の小坂打者を凡打に打止め、最後まで崩れを見せなかつた。小坂の安打は散發に終り、時にいゝ當りは入山外野手の美技に遮られ勝運に見離されてゐた。前日の一勝戰に強敵釜石を破つた入山はこの日も頗る元氣で初回一點のリードに氣をよくし、三回國井の四球から敵の連失に無死滿壘、金士の四球で押し出しの一點、續いて上面高橋の適時安打に合計四點を擧げ、更に五回高橋二壘打後、小坂捕手のボーンヘッドプレーから小坂守備陣の混亂に乘じて三點を重ね、八回二點を加へコールドゲームで小坂を零敗せしめた、小坂の脆敗は意外であるがこの日の試合振りは是非もない、閉戰午後一時四十三分

日石 磐城 0—11

日石對磐城の二勝戰は午後二時半スポーツマン球場において日石先攻で開始、兩軍のバッテリー（日石）菅原－並川（磐城）湧井武－湧井眞

日 0 0 2 3 1 2 0 3
磐 0 0 0 0 0 0 0 0
0—11

二回戰まで兩軍得點なく日石は三回磐城湧井投手の不調を見て待球主義に出で三つの四球と阿部の適時安打で二點を先取、四回また一死滿壘の好機に小幡左中間二壘打を放つて走者を一掃、三點を加へ五回二安打と敵失に一點、六回阿部の三壘打、山形の安打で二點と着々得點を引離したに對し、磐城は觀む湧井が不調で全軍の意氣揚らず八回目阿部の三壘打にまた二點を加へられ遂にコールドゲームとなる

好間入山花岡日石四チーム殘る

優勝候補の隨一に擧げられてゐた前年の覇者磐城は新鋭日石の猛撃に遭つて完敗し、古豪小坂鑛山また入山に對して一敗地にまみれ戰前優勝候補と目せられた強豪はいづれも一、二回戰で姿を沒し去つた、結局好間、入山、花岡、日石の四チームが準決勝に殘り新鋭同志の爭覇戰が大會に一段の興趣を添へることとなる

けふの試合

準決勝戰 △好間對入山（午前八時スポーツマン球場）△花岡對日石（午前八時二高球場）
優勝戰 午後三時スポーツマン球場

縣道編入祝賀
昨四日內郷館で開催
内郷村綴箕輪村高野間

内郷村大字綴より箕輪村大字高野に至る臨間の縣道編入祝賀會は昨四日午後三時から内郷館に於て開催し蓮沼各縣議をはじめ兩村議其他有志七十餘名出席、沼田村長の挨拶に對して井上氏謝辭を述べて宴に入り平町美形十數名が酒間を斡旋し盛會裡に五時散會した

神職講習會

神職會石城支部では來る八日より十一日迄平町磐城訓盲院に於て雅樂祭式の講習會を行ふ、講師左の如く講習時間は午前九時から正午迄雅樂、午後一時より四日迄神社祭式である
（祭式講師）縣神職會幹事 講師宮川富重
（雅樂）郷社立鉾鹿島神社々司佐藤鉾一 同神社々掌片寄忠重

郡下中堅青年講習
約百名を募集

郡聯合青年團の本年度郡下中堅青年講習會は既報の如く來る十六日より十九日迄四日間西白河郡矢吹ヶ原縣立修練農場で行はれるが、目下募集中の各青年團の中堅人物約百名は小檜山團長、西山、大嶺兩副團長、紺野、伊東兩常任幹事が引率、農場職員の外に黒田縣社會教育主事補及び遠藤好間尋常校長、黒木磐崎第二校長、鈴木勿來第二校長が各指導員となり四日間は規則ある訓練を受け傍ら近在模範青年團を視察すると

轟然一瞬にして死傷四名の慘事
小名濱の爆發事件後報

昨報、一瞬にして慘死一名重輕傷三名を出した小名濱町の火藥爆發事件に就いては直に平署から柴田署長齋藤司法主任の一行が現場に急行、取調べた結果幸ひ爆發のみで火災は免れてゐた爆發現場附近に居合せて重輕傷を負つた

（重傷）小名濱町本町五中島義雄方北原仙之助(四六)

（輕傷）同町下明神町周作甚一(二四)、同町加々美力(四八)

の三名は直に同町石川、草野兩醫院に昇ぎ込み應急手當てを加へたが北原並に加々美の兩名は鼓膜を破り取調べ不可能で比較的輕傷の周作に就いて原因の眞相が次の如く判明した

發破係りの過失

爆死した發破係りの東白川郡鮫川村赤坂生れ白坂梅三(五二)が埋立工事場から持つて來たズック袋の中に入れた爆藥カーリット（電氣雷管を裝塡したもの）を一時貯藏して置く事務所の金庫に入れる際爆破用電池も同じ袋の中に入れてゐたので下居合せた同僚が『危いことをするな』と忍つてゐる間もなく電池が導火線に觸れ金庫の中にあつたカーリット四十本、雷管七本が轟然爆發、白坂は五体粉碎の無殘な爆死を遂げたものであると

尙白坂が所持してゐた電池は去る二日附近から買ひ求めた自轉車用のものであると

ケーソン沈下
小名濱築港進む

一個の重量九百五十噸のケーソン十一個によつて築造される小名濱商港の埠頭岩壁は現在までに六個を沈下更に去る三日ころ七個目を沈下殘る四個は年內に沈下の豫定である

ケーソン十一個は內部に土砂を埋めその上高さ約一米をコンクリートで固めて一大岸壁を築造するもので三千噸級なら二隻五千噸級なら一隻が樂々横付けされる

第一期工事ではこの岸壁だけが使用されるので更に第二期工事を起して反對の兩側も横付岩壁として使用すべく關係方部で內務省に運動して大体大藏省さへ通過すれば十二年度から百五十六萬圓の二期工事が着工されるまでになつてをるが小名濱港もこの第一期工事による大岩壁の築造によつて商港の形体をなすに至つた

愈よ團結を堅うし町民の期待に副はん
今秋の縣下防空演習に備へ 昨夜平町防護團結成

既報、今秋の縣下防空演習に備へて結成された平町聯合防護團結團式は昨四日午後七時から町會議事堂に役員百餘名列席
開辭（四家副團長） 式辭（酒井副團長） 役員囑託 來賓祝辭（大井川中佐 柴田署長 藤田分會長）
次いで左記宣誓、萬歳三唱で式を閉ぢ終つて防空に關する研究懇談會を開き木澤古鍛冶區長から研究會結成の意見が出たが纏らなかつた

宣誓

吾等は防護團使命の重大に鑑み愈其團結を堅うすると共に常に團長の命令指示に從ひ團則を守り規律を尙ひ戮力協心防護の完璧を期し以て平町三萬町民の期待に副はむことを期す
右宣誓す
昭和十一年八月四日
平町防護團代表

防空協議會

結團式を終へた平町防護團は更に細部の協議を行ふ事となり東、北部は七日午後七時から町會議事室に、西部は六日午後七時から住吉密屋本店に會合種々打合せる

墮胎の背面を探る
姙娠娘の自殺から 當局活動を開始

川前村川前字後川原農喜久雄長女佐藤照代(二〇)は四日午前三時頃自宅で劇藥自殺を遂げたが姙娠五月の身重で臨終に『濟まない〳〵』と連呼した處から墮胎を企て誤つて死に到つたものではないかと管轄小野新町署は平檢事局と打合せ關係者あるものとみて取調べを進めてゐる

常習賭博に懲役二ヶ月
双葉郡熊町村

小濱字辟料理屋田中清太郎方賭博前科四犯青田壽時(四四)に係る常習賭博事件は今五日平區裁野木判事係りの公判で求刑三月に對し懲役二月を即決言渡された

壽時は時と場所の記憶なきまでに數多く賭博を常習したもので去月二十八日同人宅で十丹賭博を開張した同町佛濱自動車運轉手瀧好夫(二九)同町小濱ブリキ職竹田留五郎(四二)の兩名は各六十圓、同町佛濱荷馬車挽渡邊清(三二)は二十圓の各略式罰金に處された

持參金を返せ！
子供三人を抱へて 赤井の坑夫平署へ

赤井村高萩坑夫佐々木春松(四二)は十年前同村農渡邊音次の許に持參金二百圓で入婿妻まつ(三五)との間に子供三人をもうけたが親達との折合ひが惡く三年前音次等は毎年白米二俵を送られる約束で田村郡小野新町に轉住した、處が春松は妻子四人を抱へて生活苦に陷り約束の仕送りも杜絶え勝ちになつたので音次は『そんな不甲斐ない男には、娘を預けて置けない』と去月末遂にまつを引取つて行つたので春松は子供三人を殘されて途方に暮れ其後『別れるなら持參金を返してくれ』と話を進めたが更に埒が明かぬので今五日朝平署に『何とか話しをきめて下さい』と泣きついて來た

種牡馬檢査

本縣今年度の定期種牡馬檢査日割は此程決定したが、本郡では來月十五日上遠野、平の二ヶ所で行ふ

死体漂着
遭難漁夫の 勿來九面海岸で

三日午前十時頃勿來町九面海岸へ腐爛死体が打ちあげられてゐるのを通行人が發見、調べると右は去月十日平潟沖合に出漁中濃霧と激浪のため漁船から海中へ轉落行方不明になつた平潟町丸大漁業部漁夫川島兵次郎(一九)と判明した

鮫川から海へ＝小名濱沖に漂ふ
錦の溺兒一月振りで發見

去月九日午後三時頃錦村江栗字下の後金藏二男岩雄(六)が友達五六人と共に江栗地內鮫川で水泳中行衞不明となり各方面へ手配搜查中であつたが、去る三日小名濱沖合五浬の所で出漁中の漁夫が發見屆出でにより小名濱駐在所で檢視の結果前記岩雄と判明、死体を家人に引渡した

。。。。青沼町長湯治 傷の癒つた青沼平町長は既報の如く目下宮城縣刈田郡鎌先溫泉の一條旅館で靜養してゐるが三週間位滯在する豫定であると

平のチフス植田へ飛ぶ

植田町金畑鐵道員金井寅吉長男常雄は四日午後二時頃植田町前田醫師診斷の結果チフスと決定大消毒と共に直に隔離舍へ收容したが前記常雄は四、五日前迄平町百澤商店の店員として働き居たる者で同店員七海正夫、高木亨の兩人が去月三十日來チフスで隔離されて居るので傳染系統は之れかららしいと

。。。。啞の盜み失敗 平町古鍛冶町山口忠男(三二)は三日午後一時頃四倉海岸脱衣場から衣類を盜まんとして四倉署員に擧げられたが同人は啞であると

山田縣議經過良好

双葉郡選出縣會議員山田六郎氏は過般來平町北川醫院に入院中であつたが經過良好十日內外にて退院出來る見込であると

天氣豫報
小名濱測候所觀測

今晩は南の風晴時々曇
明日は南西の風晴時々曇

投槍
投書歡迎

心臟の強い運轉手。。。。

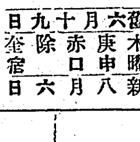
◇乞食の道中 よろしく先を急ぐでなし、手間ひまに構はず客を拾ふ爲に町內を散々徐行した揚げ句縣驛前の客待ちに稍々小半時空費する弊害は先達の競爭勃發後に於ける協定により悉皆改善されたので大に助かる事になつた

◇之ゝ乘合禮讃の一つ つい兩三日前自分の乘つたバスが湯本上町の踏切りを越えると、恰も天王樣の神輿渡御で、上を下へと揉む中を乘り切る事が極めて危險と見た運轉手と助手は三四人居た客の諒解を求めて逆行して踏切りの處から線路に沿ふて裏町へ出た。咄嗟の機轉である

◇が其の日の歸りである。途中で土砂降りの雨に遭ひ、客は幸ひ自分一人だつたので距離も却つて短縮されることではあり、長橋町の突き當りから入つて自分の家の横に降ろして呉れまいかと相談すると『乘合だから……』と斷はられた

◇規則の枉げられぬ事は自分も知つて居る、併し斯うした場合、敢て三角形の二邊を長驅し、たつた一人の客を濡れ鼠に迄せねばならぬものであらうか。頭の良いのと硬化したのとは斯程迄に違ふものであるか其の癖こう云ふのに限つて定員外收容の常習違反者である

（訓盲院附近居住者）



新八月六日 木曜 庚申 赤口 除 奎宿 舊六月十九日

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 安逸に過ぐれば苦境に陷る事あり病厄注意▲二黒 元氣横えつし謀る所成就する旨起業開店大吉▲三碧 ほまれを得る事あり旅行安全そしりをかうむる事あり▲四綠 炎天にさらさるゝみゝずの如く地の利を得ず破めつ▲五黄 有力者に見離さるゝ事あり同情を失はぬ事▲六白 誘惑を却け自己の本分を盡せば自ら發達す▲七赤 得る所少なきも辛抱して常業に親しむが吉▲八白 利じゆん多大にして財貨大にかさむべし倉立大吉▲九紫 親その別なく迷惑となる事持込まる

六日（小名濱測候所發表）

日出	四、四八	月出後	八、一三
日沒	六、三七	月沒前	七、五九
滿潮	前五、一五 後六、〇五	干潮	前一二、〇〇

御新盆提灯

●御戒名提灯 …特製スソ模様入レモ出來マス…
△岐阜提灯・變形掛灯 ……各種取揃へました……
是非御用命を！價格低廉の
スガノヤ提灯店へ
平・四 電話九五番

海水浴は豐間へ!!
白砂青松！一日の潮干狩！お家族連れも絶對安全！
◇浴場 豐間海水浴場…… 薄磯海水浴場…… 沼ノ內海水浴場…… 何れも豐間村內にありて、接近・遠淺・磯遊に好適！
◇名勝 沼ノ內辨財天、賽ノ河原（薄磯）鹽屋崎燈台、大服漁場、二見ヶ浦
◇設備 （無料脱衣場）娯樂の設備あり
◇貸室 （一疊壹圓內外） 御紹介あれば御便宜取計ひます
◇自動車料金 期間…七月十五日より八月三十一日まで特別割引
平—豐間 片道三十錢（往復四十五錢）
平…薄磯・沼ノ內 片道二十五錢（往復）四十錢
主催 豐間村青年團
後援 豐間村消防組 鈴木自動車部 電話二一七番 野崎自動車部 電話三四〇・三四三
今年も是非豐間へ!!

時代の要求 皆樣の足!!
尼子タクシーへも 豆タクが入りました。
御玄關から玄關へ…迅速簡便
是非御利用を……。
市內…三〇錢 市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス
宮行－直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平町二丁目 尼子自動車商會 電話六四〇番

吉田眼科醫院
醫學士 吉田久雄
平町紺屋町 電話六八番